

IIAS NEWSLETTER

2000年4月発行

国際高等研究所

「けいはんな学研都市」

国際高等研究所は、「人類の未来と幸福のために何を研究すべきか」を研究することを基本理念として、新たな学問の創造・進展を目指す「課題探索型」の基礎研究を行っています。

すなわち、人類の未来と幸福にとって不可欠な課題を発掘し、その問題解決に向かっての研究戦略を展開する中で、学術研究における新しい研究の萌芽、或いは新たな学問の立ち上げにより広く世界文化の発展に寄与することを目的としています。

目次

2000年度事業計画

掲示板 今後の予定

2000年度事業計画

2000年3月23日（木）午後2時より高等研216号室において、「第41回理事会」、「第36回評議員会」が開催され、(1)2000年度事業計画、(2)2000年度収支予算、(3)理事・監事・評議員の選任、(4)役員人事、(5)「研究事業推進基金」の設定の5議案が説明され承認された。「2000年度事業計画」の概要は下記のとおりである。

- 総 括 -

2000年度の事業計画において、以下の6点を重点課題とし事業を行う。

1. 研究事業の積極的な推進

自主財源（基本財産運用益・運用財産）をはじめ、文部省「科学研究費補助金」、日本学術振興会「未来開拓学術研究推進事業」、科学技術振興事業団「戦略的基礎研究推進事業」等の公的資金を活用し、課題研究（A）、課題研究（B）、特別研究、共同研究、受託研究等の研究事業の推進を図る。

2. 研究者の招へい

3. 若手研究者の育成

4. 研究成果の取りまとめ及び評価

5. 研究環境の整備及び情報発信機能の充実

6. 研究資金の充実

- 研究事業の推進 -

1. 課題研究（A）

課題研究（A）は、中・長期を展望した研究テーマについて、計画的に推進する課題探索型の基礎研究とする。

2000年度における課題研究（A）は、従来の課題研究からの継続研究である4件の研究事業と、1999年度の準備研究の成果を踏まえ、課題研究（A）に移行する2件の研究事業の計6件を推進する。

（1）「生物研究と生命

- 生物学の総合化と生命概念形成への寄与 - 」

（1998年度開始、2000年度終了予定）

研究代表者：中村 桂子

JT生命誌研究館副館長
国際高等研究所特別委員
専門：生命科学・生命誌



総合生物学（分子生物学、遺伝学、発生生物学、進化学、形態学、分類学などを統合

した新たな学問体系)が生まれつつある。その動きを把握し、新しい生命観を探ることを目的とする。

(2)「環境と食糧生産の調和に関する研究 - 人類生存の視野から - 」

(1998年度開始、2000年度終了予定)

研究代表者：渡部 忠世



京都大学名誉教授
国際高等研究所企画委員
専門：農学・作物学

人口の増大に伴って、環境問題と食糧生産のジレンマは拡大していく。両者の調和をどこに求めたらよいのか。本研究は、地球および地域環境論、食糧生産、人口問題、発展途上国の課題、そして国際食糧問題と食糧政策などの分野の経験豊かな専門家を集めて共同討議を重ね、学際的なアプローチによって、この諸問題の解決の手がかりを得て、その総観的な見取り図を描き出す。

(3)「臨床哲学の可能性

- 生命環境の諸問題を軸として - 」

(1999年度開始、2001年度終了予定)

研究代表者：野家 啓一



東北大学文学部教授
国際高等研究所企画委員
専門：哲学・科学哲学

「臨床哲学 (clinical philosophy)」とは、現実社会の具体的な場面で生じる哲学的な治療を必要とする問題を、自らも「医者」ではなく「患者」の一人として考えていこうとする新しい哲学的活動を指す。従来の哲学のようなアカデミズムの内部で抽象的な「一般的原理」の探求を目指すのではなく、具体的な「個別事例」から出発することによって既成の原理を揺さぶり、新たな概念の思考スタイルを紡ぎ出すことを試みる。

(4)「物質研究における多角的協力の構築」

(1999年度開始、2001年度終了予定)

研究代表者：金森順次郎

大阪大学名誉教授
国際高等研究所特別委員

専門：物性物理学



物質科学及びその関連諸分野において、研究プロジェクトを横断する企画をたて、異分野を繋ぐ新しい協力関係を作り、次の新しい発展の出発点を構築する。

(5)「高度情報化社会の未来学」

(2000年度新規、2001年度終了予定：2年間)

研究代表者 坂井 利之



京都大学名誉教授
国際高等研究所特別委員
専門：情報工学

高度情報化社会においては、サイバー空間の基盤となる情報技術と同時に、人間・キカイ系 (インフォスフェア) での新しい人間の組織、制度、秩序の構築が重要な課題となる。未来学的視点から、人類、環境、生態系、産業技術、学問研究のあり方を見出すため、「情報技術」「ボーダレス社会」「人間倫理・教育」「規範ルール」の4領域に区分して研究を推進するとともに、これらを全体的に包括し、適切なタイミングで世に問うべきメッセージを広く社会に発信することを目標とする。

(6)「種属維持と個体維持のあつれきと提携」

(2000年度新規、2002年度終了予定：3年間)

研究代表者：岡田 益吉



筑波大学名誉教授
国際高等研究所企画委員
専門：発生生物学

種属維持と個体維持は従来個別に研究が進められてきたが、相矛盾する存在である生殖細胞と体細胞とのお互いの関わり方 (振る舞い・扱い、協調、提携など) に重点を置き、無性生殖と有性生殖とは基本的に異なるものなのか、あるいは共通する仕組みなのか、またこれらの進化の過程での関係なども視野に入れて、種属維持と個体維持のあつれきと提携をダイナミックに浮き彫りにする。

2. 課題研究 (B)

課題研究 (B) は、中・長期を展望した課題について、研究項目、研究方法、研究組織等の検討を行う研究、及び特定の研究テーマについて行う短期的な研究または学術フォーラムとする。

2000年度の課題研究 (B) は、1999年度の準備研究の研究期間を延長する3件の研究事業と、新規採用である4件の研究事業の計7件とする。

(1) 「政府統治の研究

- 現代日本政府の統治構造 - 」



研究代表者：本間 正明
大阪大学大学院経済学研究科教授
国際高等研究所特別委員
専門：公共経済学

政治哲学の問題に対して、組織理論を用いることにより、経済学的に接近しようとする、学際的な研究で、日本型政府の問題を射程に入れ、政府統治 (government governance) の理論の構築を目指す。

(2) 「『一つの世界』の成立とその条件

- 鎖国時代の日本とヨーロッパ - 」



研究代表者：中川 久定
京都大学名誉教授
国際高等研究所特別委員
専門：フランス文学

ヨーロッパと日本とが日本の鎖国時代に、どのような形で多元的諸関係の網目をつくりあげ、その結果、どのように一つの世界を構成しつつあったかを本格的に解明するための具体的手続きと方法を探り出す。

(3) 「ヒト遺伝子解析と遺伝子医療の実施に際しての指針の作成

- ヒト遺伝子解析に伴う倫理問題への対応 - 」



研究代表者：武部 啓
近畿大学原子力研究所教授
国際高等研究所特別委員
専門：遺伝学

これまでの準備研究の成果を踏まえ、半年間で日本の実情に適した遺伝子医療の総

合的指針を作成、提唱して、厚生省の計画などに反映させる。

(4) 「多様性の起源と維持のメカニズム

- 多様性・乱雑性の新しい理解を目指して - 」



研究代表者：吉田 善章
東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
国際高等研究所特別委員
専門：プラズマ物理学、数理科学

新たなパラダイムの探求および乱流理論などに基づく数理的体系化の試みを両輪として、多様性・乱雑性を法則として捉える科学の新領域を開拓しようとするもの。

(5) 「量子解析と量子情報論の数理」

研究代表者：藤田 宏



東京大学名誉教授
国際高等研究所企画委員
専門：関数解析学

「量子解析の理論の発展と応用の拡大」および「量子情報論の数学的側面からの構築」のそれぞれの研究を推進し、かつ両者をリンクする試みに取り組む。

(6) 「日本統治下における台湾の法文化

- 法律文書に基づく再検討 - 」

研究代表者：チェン・ポール

東京大学大学院法学研究科教授
国際高等研究所企画委員
専門：法哲学

主として台湾と日本が所蔵する植民地時代の台湾法律関係文書を中心とした資料収集ならびにその解読を進めること、さらに当該資料を利用して比較法文化の諸問題の研究を深める。

(7) 「法觀念の比較文化論」

研究代表者：上山 安敏



京都大学名誉教授
国際高等研究所企画委員
専門：西洋法制史・法哲学

現代法実務の現状分析に主眼をおいた「法意識」論を包摂する形で、比較文化の観点を大胆に取り入れ、「法観念」の文化的種差が現代法の分野にどのように現れているかを究明する。

3. 特別研究

外部と委託研究契約または共同研究契約を締結して推進する事業の内、特に大型の予算を組み、数年に亘る研究期間を予定する特殊性などを考慮して、特別の推進体制や研究の枠組みを設けて推進する研究事業を「特別研究」とする。

2000年度は、1998年度から開始した2件の研究課題について継続事業として推進する。

(1) 「情報市場における近未来の法モデル」

研究代表者：北川 善太郎

京都大学名誉教授
国際高等研究所副所長

日本学術振興会「未来開拓学術研究推進事業」の研究プロジェクトであり、研究期間は、1998年度～2002年度（5年間）。

情報社会における情報と知的財産の創造と流通に関する著作権市場「コピーマート」について、法モデルを策定する。

(2) 「器官形成に関わるゲノム情報の解読」

研究代表者：松原 謙一

大阪大学名誉教授
国際高等研究所副所長

科学技術振興事業団「戦略的基礎研究推進事業」の研究プロジェクトであり、研究期間は、1998年12月～2003年11月（5年間）。

高等動物の器官形成は、全面的にゲノムに組み込まれた遺伝情報の逐次的発現に基づいて進行する。器官形成における遺伝子発現のプロファイルを経時的に追い、複雑な調節系にある遺伝子発現の継起事象を遺伝子単位で記載し、器官形成における発現制御のネットワークを明らかにする。

4. 共同研究

(1) 京都大学数理解析研究所との共同研究

1999年度を以て当初予定した3年間の共同研究

期間を終了するが、同研究所と協議の上、共同研究を継続する。

(2) 奈良女子大学との共同研究

研究代表者：広瀬 和雄

奈良女子大学大学院人間文化研究科教授

新規に、奈良女子大学との間で「歴史的な概念としての「日本」の形成と変容 - 意識としての古代の時間・空間およびその場におけるイデオロギーと儀礼との相関関係を軸として - 」をテーマとする共同研究を開始する。研究期間は、2000年度～2002年度（3年間）の予定。

5. 受託研究

(1) 宇宙開発事業団からの受託研究

1996年度より「宇宙ステーション等の人文・社会的利用に係わる調査研究」を継続受託しているが、2000年度においても受託を予定する。

目的は、自然科学や医学、工学以外の分野でのより広い観点から中長期的視点に立った宇宙ステーションの活用方策を検討することにある。

(2) その他の受託研究

特定の研究課題について外部から研究委託の申し出があり、本研究所が受託することが相応しいと判断される場合に、受託研究として事業化を図る。

6. 学術フォーラム

(1) 「人間教育の生物学的基礎

- 教育改革の新しいアプローチ - 」

主宰者：井口 潔

九州大学名誉教授

(2) その他

必要に応じて、学術フォーラムを企画開催する。

- 卓越した研究者の招へい -

(招へい学者「IIAS Fellow」

招へい研究者「IIAS Researcher」制度)

本研究所の研究環境を活かし、研究活動の活性

化を図るため、国内外の卓越した研究者を「招へい学者 (IIAS Fellow)」として招へいするとともに、各分野で中核として研究を推進している研究者を「招へい研究者 (IIAS Researcher)」として招へいする。

2000年度は10名程度の内外の学者を「招へい学者 (IIAS Fellow)」として招へいの予定である。特別研究等に関連し若干名の「招へい研究者 (IIAS Researcher)」の委嘱を予定している。

2000年度における招へい学者 (予定者)

(敬称略)

- (1) 伊谷純一郎・京都大学名誉教授 (人類進化論・アフリカ地域研究)
- (2) 上山 春平・京都大学名誉教授 (哲学)
- (3) 久城 育夫・東京大学名誉教授 (地球物理学)
- (4) 古在 由秀・国立天文台名誉教授 (天体力学)
- (5) 小堀 鐸二・京都大学名誉教授 (建築学)
- (6) 坂本 慶一・京都大学名誉教授 (農業経済学)
- (7) 南部陽一郎・シカゴ大学名誉教授 (理論物理学・素粒子論)
- (8) 星野 一正・京都大学名誉教授 (臨床医学・基礎医学・生命倫理学)
- (9) 細谷 千博・一橋大学名誉教授・国際大学教授 (国際政治学)
- (10) 山崎 敏光・東京大学名誉教授 (原子核物理学)
- (11) 酒井 修・京都大学名誉教授 (西洋近現代哲学)

- 若手者研究者への研究助成 -

(「特別研究員」制度及び「研究員」制度)

特別研究員として大学院博士課程修了者1名及びその予定者1名、計2名を新規採用する。また、研究員としてフランス人研究者 (修士課程修了者) 1名を新規に受け入れる。

2000年度における特別研究員・研究員

(敬称略)

<特別研究員>

- (1) 齊藤 宣一・明治大学大学院理工学研究科後期博士課程修了 (1999年度より継続)
- (2) 北 浩子・大坂大学大学院理学研究科後期博士課程修了 (1999年度より継続)
- (3) 山名 美加・大坂大学大学院法学研究科後期博士課程修了 (2000年度より新規)

(4) 浅井 暢宏・名古屋大学大学院多元数理科学研究科後期博士課程単位修得 (2000年度より新規)

<研究員>

- (1) 上野 達弘・京都大学大学院法学研究科後期博士課程単位修得
- (2) Céline Ménager・デニスディドロット (パリ第7大学) 修士課程修了 (細胞生物学)

- 情報出版事業ならびに 研究成果の公表 -

1. インターネット出版

情報出版活動の電子化を先取りする試みとしてインターネット出版を推進する。

インターネット出版では、オンライン出版 (利用者がインターネット上で注文してデジタル情報を受け取るシステム) とオンディマンド出版 (利用者の注文に応じて書物やCD-ROM版が利用者に配送されるシステム) を提供する。これらは、新たな著作権市場「コピーマート」を想定したビジネスモデルであり、特別研究「情報市場における近未来の法モデル」の実践モデルを目指すものである。

2. 研究成果の公表

1999年度以前に終了した課題研究ならびに準備研究について、その成果を2000年度内に取りまとめるとともに、学術出版や研究成果を一般に公開する講演会の開催等、積極的に公表に努める。

- 一般公開事業 -

- (1) 一般公開講演会・学術公開講演会
- (2) 『親子』サイエンス・スクール

- 広報活動 -

- (1) 広報誌「こうとうけん」ならびに「IIAS NEWS LETTER」の発行
- (2) インターネットホームページの充実
<<http://www.iias.or.jp/>>

課題研究A 研究メンバー (*印は研究代表者、50音順・敬称略)

(1) 生物研究と生命

- 生物学の総合化と生命概念形成への寄与 -

* 中村 桂子	J T生命誌研究館副館長
岡田 節人	J T生命誌研究館館長
岡田 益吉	筑波大学名誉教授
松原 謙一	国際高等研究所副所長
相澤 慎一	熊本大学医学部教授
阿形 清和	岡山大学理学部教授
倉谷 滋	岡山大学理学部教授
近藤 寿人	大阪大学細胞生体工学センター教授
高橋 淑子	奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科助教授
坂野 仁	東京大学大学院理学系研究科教授
堀田 凱樹	国立遺伝学研究所所長
山本 正幸	東京大学大学院理学系研究科教授

(2) 環境と食糧生産の調和に関する研究

- 人類生存の視野から -

* 渡部 忠世	農耕文化研究振興会代表
海田 能宏	京都大学東南アジア研究センター教授
掛谷 誠	京都大学アフリカ地域研究資料センター センター長
久馬 一剛	滋賀県立大学環境科学部教授
桐谷 圭治	農林水産省環境技術研究所名誉研究員
高瀬 国雄	(財)国際開発センター理事
高村 泰雄	京都大学名誉教授
辻井 博	京都大学農学部生産環境科学科長
坪内 良博	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究 研究科研究科長
西尾 敏彦	(社)農林水産技術情報協会理事長
福井 勝義	京都大学総合人間学部教授
陽 捷行	農林水産省農業環境技術研究所
向井 史郎	前国際高等研究所特別研究員

(3) 臨床哲学の可能性

- 生命環境の諸問題を軸として -

* 野家 啓一	東北大学文学部教授
池田 清彦	山梨大学教育人間科学部教授
小川真里子	三重大学人文学部教授
金森 修	東京水産大学教授
川本 隆史	東北大学文学部教授
小林 傳司	南山大学人文学部教授
小松 美彦	玉川大学文学部助教授
清水 哲郎	東北大学文学部教授
立岩 真也	信州大学医療短期大学部助教授
田村 公江	龍谷大学社会学部助教授
チョン・ヨンハ	大妻女子大学人間関係学部助教授
中岡 成文	大阪大学文学部教授
半田 結	九州看護福祉大学助教授
鷲田 清一	大阪大学文学部教授

(4) 物質研究における多角的協力の構築

* 金森順次郎	大阪大学名誉教授
<企画1>	
仲田 周次	大阪大学大学院工学研究科教授
志水 隆一	大阪工業大学情報科学部教授
大平 文和	NTT通信エネルギー研究所
池田 順治	松下電器産業(株)
高尾 正敏	松下電器先端技術研究所
町田 一道	三菱電機(株)生産技術センター
<企画2>	
寺倉 清之	通産省工業技術院産業技術融合領域研究所
井口 洋夫	国際高等研究所副所長
齋藤 軍治	京都大学大学院理学研究科教授
丸山 有成	法政大学工学部教授
赤井 久純	大阪大学大学院理学研究科教授
<企画3>	
福山 秀敏	東京大学物性研究所教授
寺倉 清之	通産省工業技術院
十倉 好紀	東京大学大学院工学研究科教授, JRCAT
齋藤 軍治	京都大学大学院理学研究科教授
三宅 和正	大阪大学大学院基礎工学研究科教授
<企画4>	
金森順次郎	大阪大学名誉教授
四方 義啓	名城大学理工学部教授

(5) 高度情報化社会の未来学

* 坂井 利之	京都大学名誉教授
林 敏彦	大阪大学大学院国際公共政策研究科教授
東倉 洋一	NTTコミュニケーション科学基礎研究所 所長
小暮 潔	NTTコミュニケーション科学基礎研究所
小浦 久子	大阪大学大学院工学研究科助教授
石田 亨	京都大学大学院情報学研究科教授
西田 豊明	東京大学大学院工学系研究科教授
木戸出正継	奈良先端科学技術大学院大学教授
淀川 英司	工学院大学大学院情報学専攻教授
林 春男	京都大学防災研究所教授
山下 淳	神戸大学法学部教授
坂田 裕輔	鹿児島大学法文学部講師
鷲田 清一	大阪大学文学部教授
前川 英樹	(株)東京放送・メディア国際室
福地 一	郵政省通信総合研究所
	関西先端研究センターセンター長
浅野 幸治	大阪府企画調整部企画室
真名垣昌夫	日本電気(株)
丹野 清武	松下電器産業(株)
	AV&CCシステム事業センター
橋爪 紳也	大阪市立大学文学部助教授
武邑 光裕	東京大学大学院新領域創成科学研究科 助教授

(6) 種属維持と個体維持のあつれきと提携

* 岡田 益吉	筑波大学名誉教授	石川 冬木	東京工業大学大学院生命理工学研究科教授
岡田 節人	JT生命誌研究館館長	松居 靖久	大阪府立母子保健総合医療センター
松原 謙一	国際高等研究所副所長	矢原 徹一	九州大学大学院理学研究科教授
中川 久定	京都大学名誉教授	阿形 清和	岡山大学理学部教授
星 元紀	慶応義塾大学理工学部教授	小林 悟	筑波大学生物科学系講師
岡田 清孝	京都大学大学院理学研究科教授	浅岡 美穂	筑波大学生物科学系助手
長濱 嘉孝	岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所教授	三井恵津子	サイエンスライター
川村 和夫	高知大学理学部教授		

課題研究B 研究メンバー (*印は研究代表者、50音順・敬称略)

(1) 政府統治の研究

- 現代日本政府の統治構造 -

* 本間 正明	大阪大学大学院経済学研究科教授
井堀 利宏	東京大学大学院経済学研究科教授
赤井 伸郎	神戸商科大学経済研究所助教授
岩本 康志	京都大学経済研究所助教授
大住荘四郎	新潟大学経済学部教授
小西 秀樹	東京都立大学経済学部助教授
土居 丈朗	慶応義塾大学経済学部講師
水野 敬三	関西大学商学部助教授

合原 一幸	東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
郷原 一寿	北海道大学大学院工学研究科助教授
山家 智之	東北大学加齢医学研究所助教授
西森 拓	大阪府立大学工学部助教授
青木 圭子	(株)計算流体力学研究所
田中 久陽	ソニーコンピュータサイエンス研究所
村重 淳	東京大学大学院新領域創成科学研究科助教授

< 研究B グループ長: 巽 友正 >

巽 友正	京都大学名誉教授
山田 道夫	東京大学大学院数理科学研究科教授
木田 重雄	文部省核融合科学研究所教授
大木谷耕司	京都大学数理解析研究所助教授
藤 定義	京都大学大学院理学研究科助教授
佐野 雅己	東京大学大学院理学系研究科教授
金田 行雄	名古屋大学大学院工学研究科教授
早川 尚男	京都大学大学院人間・環境学研究科助教授
高安 秀樹	ソニーコンピュータサイエンス研究所

(2) 『一つの世界』の成立とその条件

- 鎖国時代の日本とヨーロッパ -

* 中川 久定	京都大学名誉教授
井田 清子	駒沢大学非常勤講師
井田 進也	大妻女子大学比較文化学部教授
松田 清	京都大学総合人間学部教授
エンゲルハルトヨリツネ	京都大学総合人間学部助教授
小関 武史	一橋大学法学部講師
弥永 信美	大谷大学非常勤講師

(5) 量子解析と量子情報論の数理

* 藤田 宏 東京大学名誉教授

< 研究A グループ長: 鈴木増雄 >

鈴木 増雄	東京理科大学理工学部教授
荒木不二洋	東京理科大学理工学部教授
黒田 成俊	学習院大学理学部教授
神保 道夫	京都大学大学院理学研究科教授
並木美喜雄	早稲田大学名誉教授
和達 三樹	東京大学大学院理学系研究科教授
青本 和彦	名古屋大学大学院多元数理科学研究科教授
三輪 哲二	京都大学大学院理学研究科教授
甘利 俊一	理化学研究所脳科学総合研究センター
小林 礼人	宇宙開発事業団
坪井 禅吾	東京大学教養学部

< 研究B グループ長: 飛田武幸 >

飛田 武幸	名古屋大学名誉教授
大矢 雅則	東京理科大学理工学部教授
尾畑 伸明	名古屋大学大学院多元数理科学研究科助教授
斉藤 公明	名城大学理工学部教授
山ノ井基臣	名城大学理工学部助教授
Si Si	愛知県立大学情報科学部助教授
田崎 秀一	早稲田大学理工学部助教授
洞 彰人	岡山大学環境理工学部講師
浅井 暢宏	国際高等研究所特別研究員

(3) ヒト遺伝子解析と遺伝子医療の実施に

際しての指針の作成

- ヒト遺伝子解析に伴う倫理問題への対応 -

* 武部 啓	近畿大学原子力研究所教授
位田 隆一	京都大学大学院法学研究科教授
井田 憲司	国立京都病院
掛江 直子	早稲田大学人間総合研究センター助手
川島ひろ子	石川県石川中央保健福祉センター
黒木 良和	神奈川県立こども医療センター
塚田 俊彦	国立がんセンター研究所
恒松由記子	国立小児病院
古山 順一	兵庫医科大学先端医学研究所教授
福嶋 義光	信州大学医学部教授
増井 徹	国立医薬品食品衛生研究所

(4) 多様性の起源と維持のメカニズム

- 多様性・乱雑性の新しい理解を目指して -

* 吉田 善章	東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
< 研究A グループ長: 吉田善章 >	
伊藤 伸泰	東京大学大学院工学系研究科助教授
北原 和夫	国際基督教大学教養学部教授
鳥海 光弘	東京大学大学院新領域創成科学研究科教授

(6) 日本統治下における台湾の法文化
- 法律文書に基づく再検討 -

守屋 明 岡山大学法学部教授
大木 雅夫 上智大学名誉教授

* チェン・ポール 東京大学大学院法学研究科教授
石井 紫郎 国際日本文化研究センター教授
三谷 太郎 東京大学名誉教授、成蹊大学教授

(7) 法観念の比較文化論

* 上山 安敏 京都大学名誉教授
市原 靖久 関西大学法学部教授
伊藤 孝夫 京都大学大学院法学研究科教授
竹下 賢 関西大学法学部教授
角田 猛之 大阪府立大学総合科学部助教授
西村 稔 岡山大学法学部教授



掲示板

今後の予定 (会場は原則として高等研) 2000年5月~2000年6月

月 日	プロジェクト名	オーガナイザー
5月10日(水) ~ 11日(木)	「種属維持と個体維持のあつれきと提携」 第1回研究会	岡田益吉 (企画委員/筑波大学名誉教授)
5月12日(金) ~ 13日(土)	「環境と食糧生産の調和に関する研究 - 人類生存の視野から」第15回研究会	渡部忠世 (企画委員/京都大学名誉教授)
5月12日(金)	日本学士院・国際高等研究所共催講演会 「今後の日本の企業経営の在り方と商法改正」 「戦後の燃焼研究の推移-地球温暖化防止に関連して」	河本一郎(神戸大学名誉教授)・辻廣(東京大学名誉教授)
5月24日(水) ~ 25日(木)	「IIASフェロー研究会」第4回関西国際地盤工学フォーラム(KIGForum 2000)「新しい地盤環境の創造」	赤井浩一 (IIASフェロー/京都大学名誉教授)
5月26日(金) ~ 27日(土)	「高度情報化社会の未来学」第1回研究会	坂井利之 (特別委員/京都大学名誉教授)
5月31日(水) ~ 6月3日(土)	「物質研究における多角的協力の構築」第17回企画3「JRCATとの共催国際シンポジウム」	金森順次郎 (特別委員/大阪大学名誉教授)
6月8日(木) ~ 9日(金)	「IIASフェロー研究会」	南部陽一郎 (IIASフェロー/シカゴ大学名誉教授)
6月10日(土)	IIASフェロー公開講演会 「美しいノイズ-もっと数学を身近に-」	飛田武幸(IIASフェロー/名古屋大学名誉教授)
6月17日(土) ~ 18日(日)	「臨床哲学の可能性 - 生命環境の諸問題を軸として -」第6回研究会	野家啓一 (企画委員/東北大学文学部教授)
6月17日(土)	言語の脳科学 公開講演会「言葉と脳」	乾敏郎(京都大学大学院情報学研究科教授)・大津由紀雄(慶応義塾大学言語文化研究所教授)・田辺敬貴(愛媛大学医学部教授)・山鳥重(東北大学大学院医学系研究科教授)
6月24日(土)	IIASフェロー公開講演会 「インフォームドコンセントとは一賢い患者になるために-」	星野一正(IIASフェロー/京都大学名誉教授)

お問い合わせ

国際高等研究所



International Institute for Advanced Studies

編集・発行 / 国際高等研究所

〒619-0225 京都府相楽郡木津町木津川台9-3

TEL: 0774-73-4001 FAX: 0774-73-4005

http://www.iias.or.jp/ e-mail: www_admin@iias.or.jp